

2022 年度

# 第1回 保育講演会

日時 2022年6月10日(金)  
テーマ 絵本が育む愛の力 ～親子の絆を深めるために  
講師 絵本作家 葉 祥明 先生

去る6月10日、葉 祥明先生の講演会が礼拝堂にて、対面、そして配信にて開催されました。葉先生の講演は2013年、2015年、2018年に続き、今回で4回目になります。



「タクシーで2周してたどり着きました…」と園までの道のりに関するエピソードをご紹介くださり、リラックスした中で講演会はスタートしました。

スクリーンに映し出される作品の数々、まるで北鎌倉にある「葉祥明美術館」を訪れたかのような雰囲気の中でお話いただきました。

出席 69名(対面)

## 【講演内容】 葉先生の作品・作品に込めた想い

『ぼくははちぞう』をはじめ『オレンジいろのペンギン』、子育て絵本シリーズ『子どものころを感じてみようよ』『Open Your Heart ～ヒーリング・キャットII～』を中心に画業50周年を迎えた今日に至るまで、数多くの作品を手掛けられました。

「何のために自分はいるのであろう」という自分探しや「なぜ自分は他者とは違うのか」といったことをテーマに作品作りをされた葉先生。他者とは違うからこそ、個々の個性を大切にしよう訴えられました。また子どもたちの気持ちを代弁することもされてきました。

胎児も含め、子どもは自らの気持ちを十分に表現する術を持ちません。また親は日々の生活に追われ、目の前の子どもが「何を考え、何を訴えているか」を見逃し、親からの一方的な語りかけになりがちです。作品を通し「子ども時代の気持ちを忘れてしまった大人」



に向けて、「物事の本質的なことを考えている子ども」に寄り添い、子どもたちのとる行動の理由を説かれました。また「大切なことは心で感じ取ってみよう」と親子の関係を見つめなおす取組みもなさいました。

「Life… 命・人生・生活」も大切なテーマの一つであり、「人生とは旅のようなもの」と表現されました。

「速さ」や「結果」が求められる現代ですが、だからこそ「ゆっくり、歩いていこう。寄り道するからこそ発見できることがある」、「日々の行いも愛を持ち、心を込めて行えば神聖なものになる」、「羅針盤は心の中にある」「できれば止まって、心が満たされるよう」な日々を歩むことの大切さを説いてくださいました。

## 「膝の上に抱っこして、絵本の読み聞かせを…」

あたたかい腕の中で、親の鼓動を聴きながらの絵本タイム。

子どもは「安心」「安全」「嬉しい」「幸せ」を体で味わうことができます。

こうした経験がベースとなり「こんなことをしたらお母さんが悲しむ」といったように、子ども自身が直感で身の危険から逃げられるようになるのです。

幼児期に母親から大切にされたという感覚が大事であり、愛情豊かに育った子どもは悪人にはなりません。

幼児期は絵本を、学童期には文学や芸術作品を味わうことが感性を磨くことにも繋がります。

### 「見守ることの大切さ」

手を出さずに、見ることを通じて子どもを守る。  
危ない時には手を差し伸べられる姿勢が親には求められます。  
子ども自らが用心し、「見守られている」ということを感覚的に認識できることが必要なのです。

### 「役に立つ善人たれ」

自分自身を大いに活かした上で、社会の役に立つことが大切です。  
家庭において母親としての役割を全うすることも十分大変ですが、一人の女性として、母親として、人間として、より広いステージで自分を活躍することを期待しています。  
そのためには自分自身を成長させることで、自分を満たし、自分を支えることができます。  
ボランティア活動やウクライナ問題に思いをはせることも重要なことでしょう。

### 「自由と自立」

50年の画業、そして75年の生涯にわたり、「経済的な基盤を持ち」自立した上で、自分がやりたいことができる「自由」を獲得できると感じてきました。  
また時には子を守るために世の中のルールを破ることも必要です。

### 「ヨブ記」

長く人生を生きていくと、苦しみ、苦労を味わうこともあります。  
そのような時は聖書の中の「ヨブ記」にある通り、苦しいことがあるとしても、「何とか生きていく」といった心持ちも大切になるでしょう。

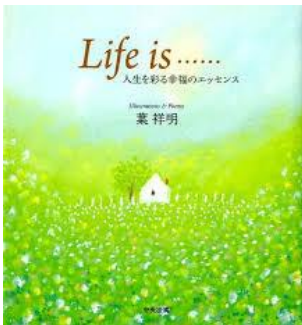
### 「生きていくことは、働いていくこと」

質疑応答では「ご両親に関して」や「どのようにして作品を作られるか」などの質問に関して丁寧にお答えいただきました。

7人兄弟姉妹の中でお育ちになり、ご両親はレストランの経営をされていらっしゃいました。  
ご両親の「一生懸命に働いている姿」を見て、「生きていくことは働いていくこと」、  
「必要最低限のお金や物があれば充分」、本の製作時には「読み手を意識して作品を作る」といった葉先生の経済観やお仕事に対するお考えもご披露いただきました。  
「自由とは自分である所以、自分である理由であり、自分らしく生きられない、自由に生きられないから不幸を感じる」とも教えていただきました。

### 朗読 「母親というものは」

講演会の最後には、音楽を流しながら葉先生が詩を朗読してくださいました。  
先生のお優しい声に、肩の力が抜け、また心の深いところにまで詩が響きました。  
あたたかいメッセージに涙される方もいらっしゃいました。  
豊かなひと時を過ごすことができましたことに心より感謝いたします。ありがとうございました。



## 参加された方より

スイトピー組 朝比奈加織

母の日の集いに、亜樹子先生がお読みになられた『母親というものは』の詩がとても心に響き、葉先生の講演会を楽しみにしていました。

子供に『これはダメだよ』『こうしなさい』などと、ガミガミ言うてしまうことが多い中、先生のお話を聞き、もっと子供に寄り添って、自由に我が家らしい子育てを楽しんでいきたいなと思いました。葉先生の素敵な絵と朗読に、心が洗われ、とても感動しました！

心に響く素敵な講演会をありがとうございました！

ゆり組 近藤亜由美

オンラインにて参加させていただきました。ちょうど下の子のお昼寝の時間でしたので心穏やかにお話を聴く事ができました。映し出された葉祥明先生の画に癒され、最後の「母親というものは」の朗読では自然と涙が出てきました。

とても貴重な機会に参加させて頂きありがとうございました。

コスモス組 林冰凌

幼稚園のおかげで外国出身の私が葉祥明先生を知りました。教育館で初めて絵本を開いた瞬間、綺麗な絵に驚き、好きになりました。そして講演会をお聞きした後、感涙をしてファンになりました。心を新しい美しい世界に導いてくれて本当にありがとうございました。

これから娘と先生の絵本を読むのが楽しみです。美術館の方にも是非行ってみたいと思っています。

スイトピー組保護者

心温まる優しい映像と講演をありがとうございました。

子どもを膝の上に乗せて読みきかせをする事の大切さを改めて感じました。子どもにとって、幸せや安心感、気持ちを落ち着かせる効果があると仰っていましたが、私にとっても同じ効果があるなと息子を膝に乗せ絵本を見るたびに思います。息子が成長するにつれて絵本の読みきかせが減ってきていますが、いつまでもできることではないので、今この貴重な時期の読みきかせを大切にしたいなと思いました。

また、安全を感覚的に育てる効果もあるということで、とても重要なことだなと思いました。

最後に朗読していただいた「母親というものは」にはとても感動しました。共感できる思いでもあり、自分はそうなれているのかと考えさせられるものでもありました。母親というものにしてくれた息子に感謝しつつ、大切に育ててあげたい、そして私も息子と一緒に成長していきたいと思いました。

スイトピー・ゆり組 井川 愛

初めて葉祥明先生の講演会に参加させていただきました。先生の、シンプルだけど、温かく、心に響く絵が大好きです。

今回、先生が朗読して下さった詩が、母親としての自分の胸に突き刺さりました。

自分はおおらかな母親とはかけ離れ、毎日子供を「早くして！早くして！」と急がせてばかり…

先生の言葉に、涙が止まりませんでした。

先生の言葉を胸に、これからは「おおらかな母親」を目指して、子供と一緒に私も母親として成長していきたいと思いました。

ゆり組 丸山 智恵

先日は素敵な講演会をありがとうございました。葉先生の描く優しい画と詩に癒されながら、子どもとの関わりを振り返る機会にもなりました。

講演後、海辺のジェイクの絵本を購入致しまして、その日のうちに子どもと楽しみました。

最近、子どもに絵本を読もうよ！と誘ってもYouTubeやTVに夢中で一緒に読む機会が少なくなっていたのですが、今回の葉先生のお話を参考に「ママのお膝に座って読もうよ」と誘ったらスッと座ってくれました。久しぶりに膝に乗せて本をめくると、重くなったな、座高も高くなったな、と子どもの成長を感じる時間にもなりました。その後、子どもがジェイクとカメのキャラクターをととても気に入り、本の絵を何度も触って可愛がっています。葉先生のお言葉を思い出しながら、絵本を通した子どもと触れ合いを大切にしたいと思います。

本当にありがとうございました。

先日は、講演会に参加させていただき、とても有意義な時間を過ごすことができたことに感謝しております。私が、葉祥明先生の本に出会ったのは、上の娘が年少さんの頃、同じく野毛山幼稚園に講演会にきてくださったことがきっかけです。講演会という少し堅苦しいイメージがありますが、今回も先生の温かいお話に、ウルっとしてしまったり、時にはクスッと笑ってしまったりと、とても充実した楽しい時間でした。家には、今回購入させていただいた一冊を含め計4冊の葉祥明先生の本があります。中でも私は「しあわせってなあに」という本がとても好きで、今年年少になった息子にも読み聞かせをしています。その本は、犬のジェイクが公園にいる動物の友達に、幸せを感じることを聞いてまわるというストーリーです。動物たちは、それぞれ日常の生活の中に、小さな幸せをたくさん感じて生きています。中でも初めて出会ったグレイスという犬の「しあわせって、なにともくべつなことじゃないのよ。それはわたしがわたしらしくいられて、いろんなことをうれしいうちにおもえたり、ところがやすらいでいられることなんだから」という言葉がとても好きです。今回の講演会でお話を伺って、日常の中には小さな幸せがたくさんあること、他者と比べずに自分だけの道を自分だけのペースで歩いていくことの大切さを改めて考えることができました。息子は、ジッとしていることがとても苦手です。そんな息子に、「周りに迷惑をかけて・・・どうしてできないんだろう。」そんなことばかり考えて、つつい怒ってしまったり、イライラしてしまったり、急がせてしまうことが多々あります。そんな自分を反省しつつ、これからは寄り道が大好きな息子と、余裕を持って、虫や植物をゆっくり観察したり、小さな日常の幸せを一緒にもっと楽しんでいこうと思いました。ありがとうございました。

## コスモス組 井上 玲菜

先日、北鎌倉にある葉祥明先生美術館を訪れました。北鎌倉の駅に降り立つと、静かで落ち着きを感じました。駅から美術館までの線路沿いを歩くと、古寺の自然景観や紫陽花を見ながら穏やかな気持ちになり、時間がゆっくりと流れているような感覚になりました。美術館では、たくさんさんの絵から優しい雰囲気が伝わってきて、愛を感じました。静かな空間でいろいろなことを振り返る時間をもて、平和に穏やかに生きていきたいと強く感じていました。

講演会でも北鎌倉へ行った時の気持ちを思い出し、ゆっくりとした時間の流れで、子育てとは、母とは、生きるとは、いろいろなことを思考しながら先生のお話を聞くことができました。貴重なお時間を与えてくださり感謝いたします。ありがとうございました。

## ゆり組 稲葉千恵子

私にとって初めての子育て。  
母になり3年7ヶ月が経った。  
娘は幼稚園でとても多くの事を吸収してくる。  
お家では出来なかった事ができるようになり、新しく覚えたお歌を聞かせてくれる。  
私は家事と育児の両立を体力に問いかけながら1日を過ごすのが精一杯の日々だ。  
私は母をやれているのだろうか？  
娘にとって良きママなのだろうか？  
目まぐるしい毎日が振り返る事も立ち止まる事さえも許してくれなかった。  
葉 祥明先生と過ごした時間はそんな悩みを吹き飛ばしてくれた。  
まるで心の処方箋のようにやわらかい言葉たちが私の迷っていた細胞に浸透していった。とてもあたたかい時間だった。  
少しずつ、ゆっくりと娘は自分の人生を歩みはじめた。  
元気いっぱいその小さな身体を今日はいつもよりぎゅーっと強く抱きしめたい。  
梅雨空の礼拝堂で優しさに包まれながら、とても穏やかな気持ちになりました。

## スイトピー組 窪田 ゆめ

葉先生が朗読してくださった  
「母親というものは」の詩を聴いて、  
息子の母としてはもちろん母に育ててもらった娘として色々と思いポロポロと涙してしまいました。  
母に注いでもらった愛を糧に、次はわたしが我が子に…  
脈々と繋がる母親の想いを  
わたしも大切に尽くしたいなとそう思いました。  
「Open your Heart」  
「Heart is…」  
息子の名前に因んで選んだ2冊の本がいつか息子の心の道標になりますように。そのときが来たら、今日のこの思いを息子にも語ってあげたいなと思います。

## ゆり組 村林あゆむ

先日は楽しいお話、そして貴重な機会をありがとうございました。先生のお人柄が表れる楽しいお話にくすっとし、最後の朗読では思わず涙がこぼれました。近頃機会が減っていた、おひざに抱っここの読み聞かせをまた毎日続けようと思います。

人を深く深く知ろうとされている方だと思いました。  
 自分は何を求めているか、子どもは、人は、何を求めているかを考えて、本の中で絵や言葉に表されているように感じました。  
 彼の絵本は子どもだけでなく親もメッセージを受け取れる絵本だと思います。  
 お話の中で子どもが何を求めているか、分からない、分かろうとしないのは「忙しい」と言って、分かろうとしないところにあるとという言葉にハッとしました。もう少し丁寧には？子どもに接してゆきたいと考えさせられました。  
 日頃の自分自身を振り返るきっかけとなり、気づきを得られたことは大変ありがたかったと思っています。

3度目の機会に恵まれました。優しさに包み込まれる作品の魅力とユーモアを交えたお話にいつも癒され、新たな気づきを頂いています。  
 今回は、葉先生のご両親のお話から…レストランのお客さまにどうしたら喜んでもらえるか、日々励んでおられた後ろ姿を見て育ったとお話が深く印象に残りました。我が日常をふり返り、ささやかなことであっても、心を込めて、その先にある誰かをおもって過ごそう、とここ数日心掛けておりましたところ、仕事や家事が充実しております。つい忘れがちではありますが、家に飾った先生のポストカードを目にするたびそのことを思い出しています。  
 ご紹介いただいた映画「サイダーハウスルール」にも大変興味が湧いたので、家族で鑑賞し、自由と自立について考えてみたいと思います。素晴らしい時間をありがとうございました。

母の日の集いで園長先生が読まれた葉先生の詩(母親というものは)は聖書かと思いつきながら聞き入っておりました。その際、清い言葉が沁み入り自然と涙が溢れました。  
 講演会前夜に前回講演会後の感想を全部拝読してお母さん方の子供達への思いが手に取るようにひしひしと伝わってきて、また涙しました。いよいよ待ちに待った当日。  
 先ずはスライドショーで流れる優しい色彩を眺めて癒されました。一語一句が心地よくスーッと入ってきてストンと落ちていきました。お茶目な先生のお話しは笑いあり涙ありで実に有意義なものでした。浄化出来て良いひと時を過ごす事が出来ました。でも久しぶりに泣き疲れました。なので「お母さんを泣かす事は一番いけない事なのです」という言葉が浮かび上がり心の中で「こんなにも大勢のお母さん達を泣かせている先生は何て罪深いんでしょう」と突っ込みたくなり喉ぼとけまで出かけた言葉を飲み込むのに必死でした。笑  
 物販には無かった大好きな星の王子様とひかりの世界を求めて図書館へ娘と足を運ぶ楽しみが出来ました。副園長先生が仰っていた様にその時の状態で感じ方が違ったりと思うので、この気持ちを忘れずに、そして節目で振り返れるよう年中年長に成長した時に何かしらの形でまたお話しを伺いたいと考えています。  
 とても貴重な機会と素敵な出逢いに感謝しています。ありがとうございました。

絵本作家さんのお話しを聞く貴重な機会だったので講演会の日をととても楽しみにしていました。  
 事前に本を読んでいたもので、こんなに綺麗な絵と綺麗な言葉を創り上げるのはきっとかなりの特別な能力を持っている方なんだろうと思っていましたが、お話しを聞けば聞くほどわたしとなにも変わらない生活を送っていて親しみのある感性を持っていることに(いい意味で)驚きました。ですが、お言葉ひとつひとつに重みと温かさがあり、心にとっても響きました。人生をいかに幸せで満たせるかという生き方、自らの理由を知ることが自由であり自分らしくいることが幸せであることの大切さを教えてください、今まで過ごしてきた人生は間違っていないんだと認められた気がして、心が温かくなりほっと安らかな気持ちになりました。  
 今こうして毎日子どもと一緒に平和に過ごせることに感謝して、一日一日を大切に過ごしていこうと改めて気付かされた講演会でした。

今回は貴重なお話をありがとうございました。先生の気さくな雰囲気には和みつつ、子どもの視点からのお話は何度もハッとさせられました。また、自分が人の役に立つこと、そのためには自分自身が充実していること…という言葉が印象に残っています。自分も何かそのようにできたら…と思いました。そして、北鎌倉の美術館には是非子どもと一緒に足を運んでみようと思います！



この度は貴重な講演会ありがとうございました。  
 先生の温かくユーモアのあるお話の中で、どの言葉も心に染み、あっという間の時間でした。最近では子供に自分の理想を押し付け気味だったことを反省し、もっと子供の気持ちをしっかりと聞いて、個性を大切にあげようと改めて思い直しました。  
 先生の朗読を拝聴し、赤ちゃんの頃はしばらく入院していたため、毎日が心配でとにかく元気でいてくれるだけでいいと強く願っていたことを思い出しました。  
 その気持ちを忘れないように、先生の本を片手に子供との時間を大切に過ごしたいと思います。今回は絵本が売り切れでしたので、いつか先生の美術館を訪れて、子供に素敵な挿し絵とお話の絵本を読み聞かせてあげようと思います。  
 ありがとうございます。

とても心の温まる講演会でした。お話を聞いているうちに、早く子どもの顔が見たいなと思いました。子育てをしていると、こうあるべきという親主体の心から、叱ってしまう場面が多々あります。これは子どものためではなく、自分のためだった時もあったなと反省しました。まだまだ母親としては未熟な私ですが、子どもが何を考え、何を訴えているのかを感じとって言葉をかけてあげたいです。  
 また、講演では葉先生著書の「母親というものは」を朗読いただきましたが、とても感激しました。先生の声と音楽と会場が一体となり、身震いさえおきました。貴重な時間をありがとうございました。

膝の上に子供を乗せて絵本を読んであげてください。という先生のお言葉にハッとしました。親の温かさ、心臓の音を感じて、外で危険を感じられる子に育つと。あっという間に大きくなってしまいう我が子。膝に乗せられるのはあと何年か。そう感じ、講演会が終わった夜、さっそく膝に乗せて本を読みました。子供も嬉しかったようでじっと静かに聞いていました。  
 毎日が嵐のように過ぎていく日々ですが『ゆっくりでいい』と自分にいい聞かせて、大切に今の時間を過ごしたいと思えました。素敵な時間をありがとうございました。

葉祥明先生の講演会をととても楽しみにしてきました。想像を超えた、愛あふれるお話をありがとうございました。先生の真心に、絵本の中にあります言葉に、優しい気持ちになり、学び癒されました。  
 「一旦結んだ相手には責任がある」この言葉に、日々の結集が人生であることを今一度感じる事ができました。  
 「Life is」「Heart is」を娘と読むことが楽しみです。目を背けたくなるニュースが多い昨今、どうすれば娘が無事に生きていけるのかと考えてしまうことがあります。とても具体的な実践出来る方法、且つ幸せな時間となる方法を教えて頂きました。「安心安全を体で覚え」「用心しなきゃ」と体感できるように、「大切にされている」感覚の積み重ねを大切に、読み聞かせをしていきたいと思えます。  
 「母親というものは」の朗読は、心が震え涙がこぼれました。「こどもへの最大の贈り物は自由なこども時代です」心に留めたいと思います。  
 娘の祖母は、葉祥明先生が大好きです。配信参加させて頂けたこと、とても感謝していました。サインと絵葉書を届けると「なんて素晴らしい日」と感激していました。  
 入園前、幼稚園のホームページを拝見した際、先生が講演会にいらしていたことを知り、とても驚き、いつかそのような機会をと願ったことを思い出しました。大変貴重な時間を設けてくださりありがとうございました。

葉祥明先生の絵に出合ったのは15年前。広々とした青空と草原、そのなかに木や家や生き物がぼつんと描かれた絵に強く惹かれ、心地よさを感じたことを今でも覚えています。私自身も葉祥明先生が描くような風景が好きで、そのような風景を求めてイタリアのトスカーナ地方まで行ったことがありましたので、今回の講演会をととても楽しみにしておりました。  
 自分にとって心地いいものを描いてきた葉祥明先生のお話には、背中を押してくれる励ましのお言葉がたくさんあり、幼少期のお話も大変興味深く、穏やかで温かい詩の朗読には涙が止まりませんでした。  
 講演会の際に購入した絵本「オレンジいろのペンギン」は、自分の個性を受け入れ、相手の個性を認め、ともに助け合って生きていくことの大切さが描かれていました。そして最後のページには先生のととても温かいメッセージが・・・  
 子どもも大人の心にも温かく寄り添ってくれる素敵な絵本、長く大切に読んでいきたいと思えます。この度はこのような貴重な機会を頂きまして、ありがとうございました。

コスモス組保護者

講演会の前日に朝日新聞に葉祥明先生のインタビュー記事が載ってしまって、お話を伺うのをとても楽しみにしておりました。  
美しい色彩が印象的で、暖かな気持ちになりました。ありがとうございます。  
「母親というものは」の詩の朗読は、心にとっても響き、日々の疲れた心が癒されました。  
我が家の息子たちも本を良く読みますが、最近は凶鑑を読むことが多いので、ゆっくり絵本を読む時間もとりたいたいと思います。

スイトピー組 萩原 詔子

全体を通して、色々思うことができました。  
まずは、幼稚園に通う次男には、自分の膝に乗せて絵本を読んであげたいと思いました。  
公演当日は、中学一年の長男用に「幸せに生きる 100の知恵」という本を一冊購入させて頂きました。自分でも毎日1つずつ読んでみるのも良さそうだなあと考えております。  
家に帰るといつもの母に戻ってしまいがちなのですが、今回の気付きを日々意識して、丁寧に過ごしていきたいと思いました。  
大変貴重な公演を企画していただき、本当にありがとうございました。

コスモス組 外木 響子

ずっと楽しみにしていた講演。胸に響く言葉ばかりで、特に最後の朗読には溢れ出す涙をこらえられず、前を向くことさえできないほどでした。  
海や空のように広く穏やかな心で、子どもに安心を教えられる母親でありたい。葉祥明さんの絵のように、世界は美しいものだと娘にも気づいてほしい。そう強く感じました。  
自分らしく、役に立つ善人になれるよう、先生の絵の力に励まされながら日々を大切に過ごしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

コスモス組 西澤 加栄

描かれている絵やお写真から、とても物静かな方だと勝手に想像していました。面白いことを思い付いて、いたずらっ子のような表情を時折見せつつ楽しそうに話される姿を見ながら、先生の話にどんどん惹き込まれていきました。  
見守る子育て、愛を持って生きる、自由と自立についてなど、どの話もとても興味深く、先生の視点を感じながらサイダーハウスルールを観てみたい、先生の本をもっと読んでみたいと思いました。  
最後に聴かせていただいた「母というものは」の朗読。先生の優しさを含んだ声で紡ぎ出される言葉を聴きながら、日頃の悔いや反省が剥がれて落ちていく感覚とともに、溢れる涙が止まりませんでした。母への感謝、そして子どもへのごめんねとありがとうの気持ちでいっぱいになりました。  
とても尊い時間を過ごせたことに感謝しております。

ゆり組 毛利亜矢子

素敵な講演会をありがとうございました。先生の本を紹介していただき、その中に出てくる登場人物達が魅力的で自分も共感できる部分も多く、マイペースな我が子達にもぜひ読んでみてほしい本だと感じました。兄弟の面倒を見られたエピソードより、先生のあたたかい感受性を感じられ素晴らしいと思いました。先生の絵を見ていると、星を眺めている時のような美しさや懐かしさを感じます。絵を描かれているときに、見る人のことを考えて描くとおっしゃられていましたが、もじかして星の瞬きも見る私達に向けてのメッセージがあるのかも長年の不思議に少しヒントを与えていただけた気がしました。最後の「ははおやというものは」の朗読も日々あわただしく過ごしていて、ふと忘れていた子どもとの関係を立ち止まって見直すきっかけになりあたたかい気持ちになれました。ありがとうございました。

コスモス組保護者

葉先生の発する言葉は、とても心地良いものでした。詩の朗読には、声に説得力があり、心が揺さぶられるような、そんな気がしてなりません。  
それは母である自分と、個としての自分に、語りかけてくださったと、私自身が感じたからでしょうか。あの時間は、とても優しい時間が流れていたように思います。  
絵本とは、つつい子どもの物…と誤ってしまいがちですが、いくつになっても親子で共有できる素晴らしい物だと改めて思い直しました。これからも一緒に絵本を読みたいと思います。

五年前、息子を出産する時に、母から一冊の日記帳を受け取りました。そこには、私が産まれた日から五歳になるまで、試行錯誤しながら育児に奮闘する日々が書かれていました。39年前に母が選んだその日記帳の表紙には、葉先生の絵が描かれていました。そこにいたのは、淡い桃色の夕暮れのなか、白いドレスに身を包んだ可憐な少女。育児日記を見返すたびに、綺麗だなあと眺めたものです。

この度、講演が始まる前に、葉先生の本を購入させていただき、教会で読んでいましたら、あるページで手が止まりました。39年前に母が選んだ日記帳の表紙にいた少女とまさに同じ少女が、私の手元に再び現れたのです。そこには、「待つことの大切さ」が書かれておりました。そして母の育児日記の1ページ目にも、「どんなにかこの日を待たせよう。マナの誕生である。」と書かれておりました。なんだか不思議な縁、母親の愛を感じて胸が熱くなりました。

講演では、葉先生の「母親というものは」をお聞きして涙があふれ、止まらなくなりました。家に帰って、母にも講演の動画を見せ、二人でまた泣きました。それはとても、幸せな時間でした。この度は、心を揺さぶり、穏やかにしてくださる時間をつくっていただき、葉先生をはじめ、園長先生、亜樹子先生、野毛山幼稚園の先生方、ほんとうにありがとうございます。

いつも愛情をもって子どもたち、皆に接していただき感謝しております。母が私に向けてくれた大きな愛、優しいまなざしを、今度は息子にぞんぶんに注いでいきたい、育児を楽しんでまいりたいと改めて思いました。ありがとうございます。

講演会から数日経った今も、詩を朗読くださった葉先生のお優しい声が鮮明に思い返されます。とても豊かな時を過ごせたことを実家の母にも伝えました。

すると母は学生時代、人気のあった葉先生の便箋や封筒をよく購入していたとのこと。50年近く経った今、懐かしい葉先生のお名前を聴き、携帯もネットも無い時代に手紙を書いていた当時を思い出したそうです。「子どもへの最大の贈り物は自由な子ども時代」とのメッセージを胸に、毎日を大切に過ごせたらと感じます。

私は先生と同じ世代で20代で結婚する時代に生まれました。20代で結婚して2年あまりして娘が生まれました。ながめているだけで、幸せ～！笑った！くしゃみした！目と目でお話しをした！いつもより寝すぎていると息してるんだろうかとそっと鼻に手を・・・

ミルクの時間、お風呂の時間、洗濯、掃除、買い物、夕飯の支度・・・こんな時何で泣くの～お腹すいた？何処か痛い？熱があるのかな～抱いてやると泣きやむ、もういいかな～と手を離すと泣きだす～、私の方が泣きたいよ～。そんな時、近くの学校から聞こえてくる夕方5時のゆうやけこやけの歌が～さらに追いうちをかけるように本当に泣けてくる～！そんなこんなの繰り返しで、体も心もクタクタの毎日でした。私の故郷は北海道でした。ようやく子どもを飛行機に乗せていい時期がきました。ステップを降りたとたん、空気が違う、空が、山が、風が、そんな風景が私のすべてを包み込んでくれて、体も心もすべてから解き放してくれたことを思い出しました。

湖に落ちる夕日、風のささやき、大丈夫だよ、心配ないよと。先生のしあわせの小径を開いたときにあの頃の風景と似て何とも言えない色がやさしく深く、そして自転車がポツン、小さなお家がポツン、私を想像力の世界へと・・・

昔と違って少しづつ枯れてゆく年代にでも心だけは枯れないように。

私のしあわせの小径を見つけるために、しあわせのページをめくり、幸せの時間に浸りたいと思いました。いろいろな環境の中で今日があると思います。家庭のあり方、親子の触れ合いや接し方、子どもたちにとって一番大切な一番大事な幼児期はやっぱりお母さんの愛情と役割は大きいと思います。それは今も昔も何も変わってないし私は思います。今が一番大事、後でもなく先でもなく今を大切に。精いっぱいにもがきながら・・・ネ。

今日の先生のメッセージ、心に深く深く届きますように祈りたい。子育てを終わってみて、無我夢中で歩いてきたけれど、反省もたくさんあるけれど、子どもと向き合ってきたよかったです・・・そしてその時期に私を強くさせてくれて私を育ててくれたのも子どもでした。絶版された「母親というものは」の朗読にすべてあらわれていて、心に沁みて涙でしたネ。沢山のメッセージをヒントに改めて心の持ち方を考えて行くことができる人でありたいと思いました。自分にとって一番大切なものは何かをきちんと知っておくことが大事だと思います。

いつもいい出会いを作ってくれる幼稚園に感謝です。

最後に、  
お母さんのエプロン  
ほんとうはそれは羽根だったんでしょう  
でも私やお父さんのために  
飛ぶのをあきらめてエプロンに作りかえたんでしょう

2000/6/23  
編集手帳